朝酌人推協だより

朝酌地域人権教育推進協議会

令和4年 発行 3月

令和3年度回顧

朝酌地域人権教育推進協議会
会長　神門眞澄

朝酌地域人権教育推進協議会の活動については、日頃からご支援、ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。令和3年度は、前年度からの新型コロナウイルス感染症の影響で、会議、研修会等の事業活動も例年に比し縮小傾向にありましたが、つぎのとおり市や県主催の研修会、講演会に参加（オンラインを含む）する機会もあり、人権に関する実情、課題、問題点等についての理解をより一層、深めることができました。

①ハンセン病患者の人権問題
②同和問題
③マンガに潜む偏見と差別
④性の多様性（LGBT問題）

この他、当人推協の事業として、原爆投下直後の長崎で医師として献身的な治療と研究に携わった、三刀屋町の永井隆博士の記念館への視察研修を実施しました。

リモート研修の様子

さて、昨今、マスコミ等に大きく取り上げられ世間的に注目された人権問題として、「インターネットによる人権侵害」、「性自認・性的指向を理由とした差別」、「子供の人権問題」があります。子供の人権問題では、児童虐待が増加傾向にあり、死亡に至る悲惨な事例もありました。また、性自認を理由とした差別問題では、同性カップルなどを巡って配慮を欠いた差別的言動、その他多方面に渡って不適切な扱いを受けるなどの問題があり対策が課題となっています。特にインターネットによる人権侵害については、事例が多発し、大きな社会問題となっております。一例として旧聞ですが、テレビの番組に出演したプロレスラーがSNSで誹謗、中傷された後に死亡した問題で刑事事件に発展しました。

このように、パソコン、スマホ、タブレット端末など機器が広く普及し、動画共有サイト等の利用にみられる情報発信の容易さ、匿名性等から

①特定個人を対象とした誹謗、中傷等差別的表現の書き込み
②SNSに写真や動画の無断での公開
③未成年者がインターネットの誘い出しに応じ、性的被害や暴力行為にあう事例
④無料通信アプリを使った子供間のいじめ問題
⑤同和問題に関する差別的書き込み

など多様な人権問題が生起しております。

このような現状下、新しい年を迎えるにあたり、朝酌人推協としましては人権問題を自らの問題として考え、差別、偏見、誹謗中傷のないお互いが人権を尊重し合う優しい町づくりを目標に今後とも取り組んでいきたいと思いますので、皆様方のご協力ご支援をお願い申し上げます。

研修（永井隆記念館）

朝酌小学校 人権教育の取組

朝酌小学校　人権教育主任
梅田祥子

朝酌小学校では、「お互いの人権を尊重し、あらゆる差別や偏見・不合理を見抜き、差別のない社会を作っていこうとする子ども」を育てることを人権教育目標に掲げ、すべての教育活動を通して人権教育を進めています。子どもたちは、【あさくみ】のさ…「ささえあう子」を合言葉に、自分も友だちも大切にして学校生活を送っています。

～人権旬間の取組を通して～

十月に校内人権旬間を設け、人権意識の向上を図り、人権についてより深く考える機会としています。

人権集会

人権旬間に入る前には「人権集会」を行い、六年生が人権についてわかりやすく説明しました。また、総合的な学習の時間に学んだことや、新聞記事などから人権に関わる出来事について、一人一人が考えたことを語りました。下学年の子どもたちも、六年生の思いを受け止め、人権について自分のことに引き寄せて、しっかりと聞いていました。その後、学校司書が「みんなとおなじくできないよ」という絵本の読み聞かせを行いました。互いの個性を尊重し、理解していきたいという気持ちをもつことができました。

人権標語

家族の人と一緒に考えた「人権標語」を、一階ランチルームに掲示し、互いに見合って人権について考えるようにしました。ランチルームの机の上には、様々な人権課題をテーマにした本の展示も行いました。

また、各学年一点の作品を、嵩の杜学園内で共有し、各学校で掲示する取組も行っています。

きみがわらえば
ぼくもげんきになるよ
いつもありがとう
一年　梅林あきら

あそぼうよ　その一声で
えがおが　見える
二年　細田ちひろ

全しゅうちゅう
あいさつのこきゅう　壱の型
おはようございます。
三年　池田　悠都

ありがとう　人を笑顔にさせる
言葉だよ。
四年　原　湊美

やめようよ　自分がされて
いやなこと
五年　田村　仁志

考えよう　ことばの刃
突き刺す前に
六年　菅井南々心

人権教育授業公開日・研修会

十月十九日には、人権教育に視点をあてた授業公開と研修会を行いました。研修会では、原爆を題材にした「さあちゃんとヒロシマ」という朗読劇を行いました。これは、平和の語り部である西尾幸子さんの実際の体験をもとに、読み聞かせボランティアの柏木直人さんが脚本と演出をされて、新日本婦人の会・松江支部の皆さんが各地で行っておられるものです。今回は、六年生の子どもたち全員が朗読劇に参加して平和への思いを伝えました。究極の人権侵害ともいえる戦争。その戦争がもたらす恐怖と悲しみを実感として捉え、平和の大切さについて思いを深めることができました。

研修会を通して、二つのことがわかりました。一つ目は、戦争の恐ろしさです。朗読劇を通して、原子爆弾が落とされると、大切な友だちや周りのものが一瞬でなくなることがわかりました。火で大火傷をしたり吹き飛ばされてなくなったりする人々がいて、絶対にあってはならない恐ろしいことです。二つ目は、伝えていかなければならないということです。戦争はこれから先、絶対あってはいけません。そして、戦争をなくすためには、「恐ろしさ」「平和の大切さ」を伝えていかなければならないと思いました。

六年　古藤　陽人

人権旬間の他にも、六年生がシトラスリボンの作り方を下級生に教えたり、全校外遊びをしたりなど、異学年の子どもたちが助け合い、思いやりの心が育まれるような活動を工夫しています。教職員も、いじめや体罰、ハラスメントなどの職員研修を行い、日々人権についてのアンテナを高くして、子どもたちの教育に携わっています。

朝酌地域人権教育推進協議会の視察研修

【令和３年12月14日（火）】

永井隆記念館

永井隆記念館では、館長さんのお話しとビデオで事前に永井隆氏の学習をしてから、展示を見させていただきました。

２年ぶりのバスでの外出を楽しみつつ、しっかりと平和学習ができました。

人権教育視察研修会に参加して

石村精二

この時期にしては素晴らしい天気の下、本当に久しぶりの人権教育研修会で奥出雲方面に行ってきました。

目的は、雲南市三刀屋町の『永井隆記念館』で、確か十年ほど前に同じ研修で訪れた時は旧館でしたが、今回は真新しい記念館に生まれ変わっていました(令和三年四月二十日に新築オープン)。

永井隆は旧制松江高校（現島根大学）・長崎医科大学（現長崎大学医学部）を経て、出征、退役後は長崎大学医学部助教授で勤務していました。

ところが、一九四五（昭和二十）年八月九日原子爆弾が投下され被ばく、自身も白血病という宿痾を背負いながら、被爆者を救護・治療にあたっていましたが、被爆から六年後、一九五一年五月一日に亡くなりました。享年四十三歳でした。

永井隆はクリスチャンで常に平和を願い、数々の著書（『長崎の鐘』等）の中で平和の大切さを訴えてきましたが、そういった資料が数多くこの記念館に展示されており、あらためて「平和」というものを深く考えました。

記念館のあとは、出雲横田駅でバスを降りて、ＪＲ木次線ディーゼルカーに乗車、「天空の橋」を眺めながら三井野原駅までの晩秋の奥出雲の風景を楽しみ、最後は、『奥出雲舞茸』という民間の舞茸生産センターで工場見学をしました。

コロナ渦で、本当に長いトンネルの中を歩いているような日々でしたが、バスの中で、久しぶりに研修生同士で話もはずみ、また、抜けるような青空ということもあって、一筋の明るさが先に見えるような一日でした。

人権協議会の役員の皆様、公民館の皆様、大変お世話になりありがとうございました。

地域の中にある人権について

朝酌地区民生児童委員協議会
会長　深貝恭悦

平成二十九年九月の松江市の人権に関する市民意識調査結果で、日常生活の中で差別や人権侵害を受けた経験の有無では、有りが二十三％ありました。その中で地域社会での役割分担や、近隣の人などの言動は二十六％あり又、地域に残るしきたりや習慣は十七％ありました。身近なところで知らないうちに人権問題が起きていることに気付かされました。

朝酌町の地域の中では、どうでしょうか、役割分担では、町内役員等は、殆どが男性です。逆に福祉推進員は殆どが女性です。私自身人権の勉強をするまでは、あまり疑問に思いませんでした。男女共同参画の面からでも、誰が役員になっても良いと思います。松江市内でも少ないですが、男女関係なく色々な役員になっておられるところもあります。地域性や役割の内容など何か理由があるかもしれませんが、今、私がしている朝酌地区民生委員児童委員は五割が女性です。誰がお世話をされても出来るのが民生委員児童委員です。

近隣の人からの言動は、あらぬ噂をたてられたり、悪口や陰口を言われたりというのが多いらしいですが、以前に、コロナ感染症が原因で人権問題がありました。

どうして人権問題は少なくならないでしょうか。差別や人権を受けた時の対応は、黙って我慢したが五十四％と半分を占めていたそうです。

地域の身近な人権問題などに関して地域の皆様から気軽にご意見をいただければなと思っています。

人の数だけ普通がある

朝酌地区民生児童委員　原美江

先日テレビでＡＤＨＤと診断され、周囲に溶け込むことが苦手だった男の子の話を見ました。

その子は中一の時は学校になじめず、遅刻をしたり早引きしたりが増えていき、まともに学校に行けたのはほんのわずかでした。

「僕を見ないで」「姿を消してしまいたい」と、ずっとフードをかぶって生活していました。そして「僕はゴミだから」と言って自傷行為をしていました。

そんな息子を心配した母親が「キャリアチェンジ犬」の存在を知り、家族として迎え入れました。

その男の子がキャリアチェンジ犬と一緒に暮らすようになり「人間大好き」な犬が寄り添ってくれたことで、「自分は必要とされている。生きていて良いんだ。」と思えるようになり、それまで集中力が続かず人との会話もままならなかったのが、コミュニケーションが取れるようになり、高校に行きたいと思えるようになりました。そして自ら勉強をし、無事高校に入学することができました。

ほんの二年の間のこの子の変化にすごく感動しました。

目の悪い人はメガネをかけるし、足の悪い人は車いすを使う。人の数だけ普通がある。人それぞれ普通が違う。その違いを認め合い、どの人もみんな自分らしく、自分の普通で生きていける世の中になると良いな。と思っています。

小学校の頃、自分では普通にしているのに他の人とは違うことに悩んでいた私は、金子みすゞの「みんな違ってみんないい」という言葉が大好きです。